

## 地域再生計画

### 1 地域再生計画の名称

第3期天龍村まち・ひと・しごと創生推進計画

### 2 地域再生計画の作成主体の名称

長野県下伊那郡天龍村

### 3 地域再生計画の区域

長野県下伊那郡天龍村の全域

### 4 地域再生計画の目標

天龍村の人口は、日本最大規模の平岡ダム工事により、1950年にピークに達し8,337人を擁し、1956年の平岡村、神原村の合併による天龍村誕生時にはダム工事が終息し、工事関係者の社会的減少により6,452人となった。

その後、1955年から1970年頃にかけての高度経済成長時代は、若年層の都市部への流出が始まり、この継続とともに少子高齢化が進行する中、深刻な過疎の状況が続き、2020年の国勢調査によると、高齢化率は62.1%と全国で2番目の高さとなり、人口は1,178人と長野県下77市町村中70位の規模となっている。住民基本台帳によると2025年には978人と初めて1,000人を割り込む結果となっている。国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来人口推計（令和5年（2023年）12月推計）」によると、2040年には2020年比で総人口が54%減の538人となり、生産年齢人口が52%減の見込みとなっている。

年齢別の人口割合でみると、年少人口は一貫して減少傾向にあり、2020年には72人と100人を下回った。2025年以降も緩やかに減少し続けると見込まれる。生産年齢人口は、1980年以降ほぼ同様の減少率で減少を続けており、2020年には374人となった。2025年以降は減少速度が緩やかになるものの、今後も減少すると見込まれる。老年人口は平均寿命の上昇や、団塊の世代の加齢により増加を続け、2005年ごろにピークを迎え、生産年齢人口の数を上回った。しかし、老年人口も2010年以降は減少に転じ、2020年には732人となっており、この傾向は

2060年まで継続すると見込まれている。

人口の自然動態について、出生数は2018年から2023年まで3～6人程度で推移していたが、2024年では2人と近年では最も少なくなっている。死亡数は2018年から増減を繰り返しながらやや減少傾向で推移している。死亡数は出生数を大きく上回り続けており（2024年には40人の自然減）、今後もこのような状況が続くと予想される。合計特殊出生率は2018年から2022年で1.49となっており、国・県に比べ高くなっているが人口置換水準である2.07には届いていない。

人口の社会動態について、2015年から2020年にかけての本村における主な転入・転出先についてみると、飯田市や阿南町との移動が多くなっている。全体では転入者数が116人に対し、転出者数が115人と転入・転出がほぼ均衡している。これまでは大幅な転出超過が継続していたが、近年、幅広い年齢層にわたる転入者も一定程度見られる中、社会減の減少幅は縮小する傾向にある。このような状況は、社会移動数の全体的な規模縮小や、施設入所等による高齢者の転出入の影響等も想定されるが、就労や移住・定住支援等の政策によって転入される方も徐々に見受けられるようになっている。

上記のとおり、社会動態については政策の効果が一定程度みられるものの、本村の人口減少及び高齢化は依然として進行しており、このままの現状では地域の担い手の減少に拍車がかかり、産業の衰退や地域コミュニティの衰退または消滅といった課題が生じる恐れがある。

上記の課題に対応するためには、人口減少、超高齢社会下においても、誰もが安心して自分らしくいきいきと暮らし続けられる環境を築き、村全体が活気にあふれ、未来にわたって輝き続ける村づくりを目指す必要がある。また、本村においては、昼夜間人口比率が年々上昇しており、2020年では100.1%と昼夜の人口移動が少なくなっていることから、村外へ通勤している人と、逆に村外から村へ通勤している人の差が均衡してきていることがわかり、村への通勤者を増やす施策のほか、村から村外へ通勤する若者等に対して負担の軽減を図る施策を引き続き展開していくことが重要と考えられる。

本計画では、第3期天龍村まち・ひと・しごと創生総合戦略に掲げた将来像～一隅を照らす ひと・むら・ミライ～「小さくとも、だれもがいきいきと輝き続ける村」の実現のため、次の基本目標を掲げ、これに沿った施策を推進する。

**(基本目標)**

- ・基本目標 1 若い世代の結婚・出産・子育ての希望をかなえるむらづくり
- ・基本目標 2 関係人口の拡大と移住・定住の流れをつくるむらづくり
- ・基本目標 3 誰もが安心して暮らし続けられるむらづくり
- ・基本目標 4 地域資源を活用し、安定した雇用を創出するむらづくり
- ・基本目標 5 持続可能で魅力あふれるむらづくり

**【数値目標】**

5-2の ①に掲げ る事業	K P I	現状値 (計画開始時点)	目標値 (2030年度)	達成に寄与する 地方版総合戦略 の基本目標
ア	婚活イベントや関連イベント等への参加者数(計画期間累計)	1人	10人	基本目標 1
	乳幼児健診時のアンケートの設問に「今後もこの地域で子育てをしたい」と回答した割合(計画期間平均)	100%	80%	
	「天龍力」を育てる地域との交流活動(計画期間平均)	48回	48回	
	家族留学受け入れ世帯数(計画期間累計)	1世帯	5世帯	
イ	村公式LINEの登録者(友だち)数(計画期間累計)	214人	500人	基本目標 2
	天龍村公式Instagram(イ)	1,712件	2,000件	

	インスタグラム) のフォロー件数 (計画期間累計)			
	社会増減数 (計画期間累計)	-20人	+15人	
	地域おこし協力隊の任期後の定住 (計画期間累計)	2人	6人	
	定住促進事業 (通勤助成金等) の実績値 (計画期間平均)	57件	50件	
	空き家バンク物件登録者数 (計画期間累計)	5人	25人	
	関係人口プログラム等への参加者数 (計画期間累計)	20人	100人	
ウ	要介護・要支援認定率	27.4%	26.7%	基本目標 3
	介護職員の新規採用者数 (毎年度実績)	11人	6人	
エ	生産年齢人口における農林水産業への新規就業者の増加 (計画期間累計)	3人	5人	基本目標 4
	太陽と森林エネルギー等活用推進事業補助金利用実績 (計画期間累計)	1件	5件	
	起業・ビジネス立ち上げ支援数 (計画期間累計)	2件	10件	
	農地荒廃化防止事業補助金交付面積 (毎年度実績)	1,105a	1,200a	
	農林業体験ツアーの参加者数 (計画期間累計)	90人	450人	

	大学生の受け入れ（計画期間平均）	105人	100人	
	大学生等の受け入れに関わる一般村民の協力者数（計画期間累計）	10人	50人	
	天龍温泉おきよめの湯への交流人口増加（計画期間平均）	6.0万人	6.1万人	
	ふれあいステーション龍泉閣への交流人口増加（計画期間平均）	2.95万人	2.95万人	
	和知野川キャンプ場、大河内森林公園の利用増加（計画期間平均）	2.94万人	2.94万人	
オ	村政出前講座の開催（毎年度実績）	1回	2回	基本目標 5
	各種活動支援事業（いきいき活動支援金）（計画期間累計）	2件	10件	
	各種活動支援事業（地区内自営整備材料費支給事業補助金）（計画期間累計）	1件	7件	
	村営住宅の新築、改築戸数（計画期間累計）	6戸	15戸	
	買物拠点施設利用者数（計画期間平均）	4.11万人	4.11万人	
	地区防災マップの整備数（計画期間累計）	13地区	38地区	

	村道改良率	41.8%	43.5%	
	くらし安心ICTタブレットの貸与台数（毎年度実績）	30台	40台	

## 5 地域再生を図るために行う事業

### 5-1 全体の概要

5-2のとおり。

### 5-2 第5章の特別の措置を適用して行う事業

○ まち・ひと・しごと創生寄附活用事業に関連する寄附を行った法人に対する特例（内閣府）：【A2007】

#### ① 事業の名称

第3期天龍村まち・ひと・しごと創生推進事業

ア 「若い世代の結婚・出産・子育ての希望をかなえるむらづくり」事業

イ 「関係人口の拡大と移住・定住の流れをつくるむらづくり」事業

ウ 「誰もが安心して暮らし続けられるむらづくり」事業

エ 「地域資源を活用し、安定した雇用を創出するむらづくり」事業

オ 「持続可能で魅力あふれるむらづくり」事業

#### ② 事業の内容

ア 「若い世代の結婚・出産・子育ての希望をかなえるむらづくり」事業・多様な出会いの場の創出

- ・若い世代の出産・子育てへの支援

- ・地域ぐるみの子育て環境づくり

【具体的な事業】

- ・婚活イベントの企画運営と、エスコートセミナー等の開催結婚活動支援事業

- ・若い世代の出産・子育てをかなえる事業

- ・家族留学の推進 等

イ 「関係人口の拡大と移住・定住の流れをつくるむらづくり」事業

- ・村の魅力発信
- ・若年世代等の定住促進と関係人口づくり

**【具体的な事業】**

- ・首都圏等の大型観光展でのPR活動
- ・定住促進事業
- ・地域おこし協力隊制度の活用
- ・ワーキングホリデーの導入や二地域居住の推進 等

**ウ 「誰もが安心して暮らし続けられるむらづくり」事業**

- ・安心・安全な健康長寿のむらづくり
- ・安心して暮らし続けるための地域医療体制の確保

**【具体的な事業】**

- ・介護予防事業
- ・在宅医療・介護連携推進事業
- ・介護人材確保育成事業 等

**エ 「地域資源を活用し、安定した雇用を創出するむらづくり」事業**

- ・若者が新規就業をめざしたくなる農林水産業の振興
- ・活気ある産業で雇用が生まれるむらづくり
- ・着地型の観光産業の醸成
- ・観光拠点施設の拡大、地域振興等の機能向上

**【具体的な事業】**

- ・就労の場の維持確保
- ・農地荒廃化防止事業
- ・新たな産業の創出支援 等

**オ 「持続可能で魅力あふれるむらづくり」**

- ・住民参加のむらづくりの推進
- ・生活基盤の安定を図り安心して暮らせるむらづくり
- ・DXを活用した持続可能な生活基盤づくり

**【具体的な事業】**

- ・村政出前講座
- ・各種支援事業（いきいき活動支援金、地区内自営整備材料費支給事業

補助金)

- ・村道整備事業
- ・DX推進事業 等

※なお、詳細は第3期天龍村まち・ひと・しごと創生総合戦略のとおり

- ③ 事業の実施状況に関する客観的な指標（重要業績評価指標（KPI））  
4の【数値目標】に同じ。
- ④ 寄附の金額の目安  
400,000千円（2026年度～2030年度累計）
- ⑤ 事業の評価の方法（PDCAサイクル）  
毎年度6月頃に天龍村総合戦略審議会による効果検証を行い、翌年度以降の取り組み方針を決定する。検証後は速やかに天龍村公式WEBサイト上で公表する。
- ⑥ 事業実施期間  
2026年4月1日から2031年3月31日まで

## 6 計画期間

2026年4月1日から2031年3月31日まで